

● 第6回多摩市自治推進委員会

平成21年11月11日 18:30~21:00

多摩市役所 特別会議室

出席者： 江尻委員長 大木委員 金委員 益子委員 横倉委員

事務局： 企画課長 企画調整担当主査 企画課主任

審議

・地域における青少年に関する課題などについての意見交換

今後の予定

・第7回 12月16日(水)

委員 今日、児童青少年課長、青少年問題協議会落合地区委員会会長及び西落合地区委員会会長に来ていただいた。これまで第3期多摩市自治推進委員会では、私たち自身が市民として多摩市で暮らしていく上でどんな課題があるかとか、どうすればより楽しく暮らしていけるかなどを意見交換していく中で、コミュニティの大切さが話しにあがってきた。それで、コミュニティの組織の実態がどうなっているか把握すること、地域で活動されている方の課題を聞くことなどが大事ということになった。前々回の委員会では、貝取こぶし館に行き、コミュニティセンター運営協議会の方々にお話しを伺った。机上で話していることとは少し違ったりしたところや逆に思っていたとおりのこともあり、大変有意義だった。今回、皆さんに来ていただいた理由は、子どもや若い世代との関わりの中でどのようなコミュニティ活動が行われているのか知りたかった。また、青少年問題協議会という組織の中の悩みも含めてお話しをいただきたい。本日は、ざっくばらんに話しを進めていきたい。まず、児童青少年課長から組織の概略や多摩市全体の実態について話していただき、各会長から実例をお話しいただきたい。

児童課長 多摩市青少年問題協議会の本会議は、学識経験者や関係行政庁、地区委員会会長等で構成されている。地方青少年問題協議会法という法律があり、それに基づき各都道府県市町村に青少年問題協議会が設置されている。位置付けとしては市長の附属機関である。多摩市全体の視点で青少年の健全な育成活動や環境整備の課題と方策について、「青少年健全育成委員会」「表彰選考委員会」「地区委員会会長会」の3つの専門委員会を設けて調査検討する。青少年健全育成委員会とは、青少年の健全育成や問題行動に関するテーマを設定し審議検討する。それぞれの立場で具体的に発言をし、提言としてまとめている。表彰選考委員会とは、模範となる行いをした青少年や青少年のために尽力された方を被表彰者として選考する。各地区でそれぞれ貢献している人を地区委員会の会長から推薦をいただいている。選考基準はなく自由に表彰している。地区委員会会長会とは、市内の全地区委員会の会長で構成し、地域相互の連携を深めながら全市的な取組みや課題等を検討する。各地区の校長、民生委員に協力していただき、キャンプ等をしている。市全体としての取組みは9月挨拶運動を、7月には3駅で夜間パトロールをした。地区委員会の活動の目的は、連絡調整や情報交換の場、環境浄化で、より良い地域環境をつくる活動をしている。意識啓発の部分は現実には難しい活動ではある。今日的な課題について地域の方々に考えていただいている。それぞれの地区で活動の内容は少しずつ違っている。地区委員会会長会は年7回やって情報交換している。一箇所の地区委員会で対応できない部分について協

力したりしている。また、キャンプはここがよかったなどの具体的な情報交換をしている。多摩市はニュータウンが占める割合が高く、既存の集落による歴史や積み重ねがない。新しいコミュニティをどうつくるかということを考えて活動している。

西落会長 私は青少年問題協議会地区委員会に係って10数年になる。東愛宕にいたときに初めてかかわった。その後、落合に引っ越して、東落合中学校と西落合中学校が統合するときに子どもがその中学校に通っていたのがきっかけで、西落合地区委員会において統合した学校の代表として、当時はよくわからないままにかかわった。地区委員会の活動は落合の東側はかなりの歴史がある。一方、西は今までの活動の経緯がぜんぜん分からない中で、中学校の方に青少年問題協議会を理解してもらうことから入っていった。かかわってみて、西落合地域全体で青少年問題協議会が理解されていないことがわかった。落合に引っ越してきたとき青少年問題協議会について情報が入ってこなかった。それで、地域の人に知ってもらおうところから始めなければならないと思い、児童館や校長やPTAの役員の協力を得て、子どもたちにお手紙を配ったり、行事に関してはポスターを貼ったりした。ポスターを貼ることができる場所は限られているので、自分たちで貼る場所を開拓した。無断で貼るわけにはいかないので、個々の家に電話などでお願いしたが、青少年問題協議会を宗教団体の勧誘と勘違いされたこともある。児童館や校長やPTAの名を出すと理解と協力を得た。青少年問題協議会は、夏祭りやどんと焼きもやるが、年7回の定例会が基本。最近やっと年に7回あるうちの半分くらいは、1箇所か2箇所ぐらいの管理組合の方々が出てくれる。地域の協力を全面的にまだいただけていないのが実情。今のところは、定例会に出てもらうだけでありがたいというところ。子どもの保護者の方の協力がないと西落合地区委員会は運営できない。地域の大勢の方を呼んでの子ども夏祭りや地域スポーツ大会等の親子でコミュニケーションをはかるような行事ができない。

落合会長 私も青少年問題協議会地区委員会にかかわって10数年になる。落合地区委員会は、最初にできた落合3・4丁目団地で始まった。夏祭りはすでに地区委員会に先立って生まれた。今でもお祭りは地区委員会と関係ない。地区委員会もお手伝いはするが、地域住民の手でやってきている。ラジオ体操も同じ。このような行事を今まで継続してきたノウハウがすごいと思う。お祭りを例にすると、各団地から担当者が出てくる。中には参加することに気分が乗らない人もいるが、参加すると楽しいことがわかって残ってくださる方もいて、これまで引き継がれてきた。これが落合地区委員会の地区の特色だと思う。課題は、落合1丁目など青木葉地域。どんどんアパート・マンションや戸建の家ができたが、そこに住む方々は自治会には入っていない。また、高齢化が進んでいる。老人会が今年の3月に解散した。理由は若いメンバー(高齢者)が入ってこない。自治会にかかわっていないマンションに住むご高齢の方はいっぱいいるにもかかわらず、老人会が成り立たなくなった。落合地区委員会と老人会とはパイプができていた。老人会があったときは、子どもたちに昔遊びなどを教えていただいた。老人会が解散してしまい、代わりに自治会を頼みにしようとしても1年で会長が変わるため、頼りにしていた人もすぐに交替してしまう。また、どんどん建てられるマンションはオートロックで中に入りにくい。年4回広報誌を配っているがガードが固い。落合地区委員会のお知らせをするためのお願いに20分30分説明しても、次に来たときもまた同じ説明が必要になった。

委員 落合地区委員会は落合1丁目から4丁目まで、西落合地区委員会は落合5丁目と6丁目

と南野2丁目と3丁目を担当しているのか。

落合会長 落合2丁目と4丁目はまたがっている。地区委員会は小中学校の学区によって地区が決められている。

委員 コミュニティセンターの地区割りも行政が決めるが、地区委員会にとって地境は重要か。

落合会長 学区で分かれているが、他の学区の子がきても構わない。

委員 学区を越えた問題にはどう対応するか。

落合会長 万引きなどについては他の地区委員会と情報交換している。また、落合地区委員会の中であれば落合地区にいる民生委員も参加する。

委員 例えば多摩センターのある場所に夏になると悪い子が集まるというような話は、地区委員会で話し合うのか。

西落会長 以前、多摩中央公園に毎週土曜日か日曜日にコスプレをする人が集まって来ていたことがあった。不安になった人がそのことを地区委員会の定例会で話すと、そのことに詳しい人がいて、コスプレをしている人に対しては市の方から指導し公園の外から出てはいけないことにしていると教えてくれた。自分たちのところではわからないこと、対応できない場合には地区委員会の会長会に話しを持って行って情報交換をする。最終的にどうこうすると意思決定をした経験はまだないが。

児童課長 ある地域では万引きが多いということで、その地域の人やコンビニや交番、防犯協会の人たちで話し合いをする。どこから発意があったかはともかく、地域の問題を地域の人たちが集まって検証していく風潮はある。

西落会長 地区委員会の委員もすべてをわかっているわけではないので、校長先生等が今抱えている問題、万引き等について地区委員会の会議の中で話してもらわなければわからない。当事者から情報として出してもらわないと、全然関係ないところから話しが出てきても、何の問題もなかったという会議になってしまう。どこまで学校側がオープンにしてくれるかというところはあるが。

落合会長 落合地区委員会では、情報交換や連絡調整が主だが、どんなことが地域にあったかは、学校から話しがなくてもわかっている。子どもたちの火遊びやパンクのいたずら問題になったとき、その情報が地区委員会から学校へ入って犯人が分かったこともあった。

委員 同じ落合の地域でも、自治会の地域への参加具合によって地域の活動の雰囲気が違うように聞こえたが、お互いにそれを感じるか。

西落会長 自治会の参加協力は必要だ。地区委員会の定例会に最近いくつかの地域の代表が顔を出すようになった。カラスのごみ荒しが大変という話にこんな風にするという情報交換をして、結果としてよかったということがあった。それぞれの管理組合の管理事務所に市から情報が行くようになっていないと、ある地域で不審者が出て隣地区にその情報が行かない。定例会での情報交換の中ではそういう話が出る。定例会に出てもらい地域で子どもを見守っていただくことがまず大事だ。毎年、管理組合の役員は変わるので、実態をわかった人がちゃんと後の人に引き継いでもらい継続して協力してもらいたい。

委員 自治会、管理組合の人が参加している割合はわかるか。

児童課長 事務局としては把握していない。同じ団地でも賃貸と分譲では地域に対する意識がかなり違うと思う。昔からの集落のあるところとないところでもやはり違うと思う。地域間の

意識のずれ考え方の違いは、短い期間ではなかなか解決できないのが実態だ。

落合会長 自治会の加入率が下がってきている。自治会に誰もが義務的に入るような仕組みにしたほうが良いと思う。地域の住民としての意識を持っている人と地域と係わりを持ちたくないという人とは平行線になる。さみしいものがある。

委員 自治会が青少年問題協議会のいくつかの地区委員会の地区に分割されて、どの地区委員会に行けばいいのかわからない。私は、実際に自治会に係わっていたが、地区委員会から係ってくださいというような話しはなかったと記憶している。地区委員会の構成が非常にあやふやではないかと思う。

落合会長 地区によっては、活動による連携がうまくとれずに会長が苦勞されていると伺っている。互いの情報不足による地区委員会と自治会との認識のズレがあると思う。様々な立場の人による情報交換ができるということは地区委員会にとって大きなことだと思う。それ以外の組織では情報も縦割りになっているのではないか。何か事件があると地区委員会に話しを通してそれをもって防犯にすれば良いと言われるが、地区委員会がパトロールを専門でするわけではない。しかし、情報交換については優れていると思う。

西落会長 管理組合は自治会と違い財産を管理することが目的で自治会以上に地域に係わってもらうのが難しい団体だ。地区委員会が各団地の理事会にお話しに伺わなければならないなと思った。しかし、すべての管理組合をまわるのは大変だ。やっとな管理組合の受付事務の人と顔見知りになって、そこでコンタクトをとって地区委員会の活動を理解してもらおうというところまで10年かかった。小中学校の校長先生が、理事会が開催されるときに子どもたちを見守ってくださいというお願いを一緒にしてくれたら、また違うと思う。

落合会長 自治会側がなぜ地区委員会に係わらなくても良いと思ってきたのかが不思議だ。

委員 市はこれまでに自治会との介添えをしてこなかったのか。

児童課長 それぞれの地区委員会の活動を支援すると言う立場で動いてきたのだと思う。

委員 市のほうで何らかのアドバイスや助成を基本的にはやっていないのか。

児童課長 補助金を出している。行政による支援もニュータウンと既存地区との意識の違いや、地域によっては受け入れにくいところがあると思う。

委員 近隣の青少年問題協議会と交流されていると思うが、多摩市は他市と比較してどうか。

児童課長 青少年問題協議会は市の附属機関であるため他市との交流はない。青少年委員会はある。

委員 青少年問題協議会地区委員会にとって自治会等はかなり大事だが、自治会、管理組合に対して何らかのはたらきかけをすることによって参加率があがるということであれば、地域を担う組織になる可能性がある。しかし、地区委員会だけでやるのは限界があると思う。なんらかの形で出来る糸口がないのか。

落合会長 落合地区委員会は、今の状態で成り立っているので、自治会、管理組合には地区委員会に来てもらい情報を持ち帰ってくれるだけでも十分だ。一番のネックが自治会を分断してしまう学区の存在だ。そこをうまく解決できる方法があれば、あとは以外と簡単だと思う。解決にはそのための場を設定することが必要だ。

委員 豊ヶ丘と貝取の南北それぞれで学区が一緒になるが、地区委員会は作り直しするのか。

児童課長 会長が地域の方に諮って決めていくと思う。今までそれぞれの地区で運動会等をやってきたことがあるので簡単にはいかない。市が上から介入するのではなく、地域の人が自ら決めるのが自治の推進だと思う。地区割りの不都合は、学区を道路で切って統廃合をして

きたのがこれまでの多摩市の歴史で、コミュニティより安全性を優先してきたところにある。

委員 地域の外から行事に参加することは問題ないか。

落合会長 全く問題ない。

児童課長 地域では現実に地域で子どもを育てていこうという考えもあれば、自分達の利便や安全性を大事にする考え方もある。

委員 そもそも青少年問題協議会が扱うテーマというのは、地域からいろいろな協力を必要とする問題が多いと思う。そういう意味で、青少年問題協議会地区委員会が知られていないことも不思議だ。今の話は他でもしているのか。

西落会長 しょっちゅうしている。西落合地区委員会は、今の西落合小学校以前の学区の戸建やマンションなどに青少年問題協議会のニュースを全戸配付している。最初は、全戸配布はされていなかった。

落合会長 落合地区委員会も年4回、各4,000枚配っている。啓発も載せているので、地区委員会のことを何も知らない人が見てもいいように工夫している。

委員 多摩市以外との交流会はあるか。

落合会長 ない。

委員 地区委員会の委員は何人いるか。

落合会長 落合地区委員会は50人くらい。日頃集まるのは30人くらい。

西落会長 西落合地区委員会も50人くらい。3年前から近隣の大学の学生がゼミ研修で来ている。若い方の力を借りて助かっている。

委員 地区委員会が数十人の編成になっているとなると、中に組織として専門部会のように分かれているのか。

落合会長 ない。

委員 ミニコミ誌はだれがつくるのか。

落合会長 広報担当だ。

委員 一般的に各担当部署に分かれて、上から下へ指揮系統がつくられていると思うが。

落合会長 上から下へ下ろす組織ではなく、下から吸い上げる組織だ。広報は3人いることはいるが、パソコンで原稿を作成する人、印刷する人などに役割分担している。

委員 下から吸い上げる場合、高度な個人情報が入ってくることはあるのか。

落合会長 民生委員ではないので個人情報は入ってこない。上がってくるのはある小学校の低学年の何人かがどうだというような話しが入っていく程度。それだけでも先生には誰かわかる。

西落会長 先生でなくてもわかる人にはわかる。しかし、地区委員会では個人名は出さない。個人的に先生などに話しをする。

委員 それが有効に働くことが多い。

落合会長 ふだんから顔見知りになることが大切。地域で行事を行うことは、人集めをすることが目的ではなく、顔つなぎをすることが目的だ。

委員 地域の子どもの参加数は増えているか。

西落会長 増えている。若い夫婦やご年配の夫婦も増えている。しかし行事は学校でやっているの、子どもがいらっしやらない人からは学校行事と思われてしまう。誰でも参加して欲しいが、難しい。

- 委員 地区委員会が知られていなくてもイベントは知られているのか。
- 落合会長 知られている。運動会は600人、どんど焼きはもっと多くの参加者がいる。
- 委員 ニュータウンと既存地区を抱えている地区委員会はどうか。
- 落合会長 落合地区委員会エリアに関しては落合3丁目と4丁目の団地はよくやっていると思う。
- 児童課長 地区によっては組織化を好まず、長になる人がいないところでは、組織化や情報共有をするのは難しい。
- 委員 濃い薄いはある。一番困るのが新しいマンション。地区委員会は今後これからどうなっていくのか。どうなることが望ましい姿なのか。
- 西落会長 今後も身近にあるコミュニケーションとして大事な地域活動かなと思う。地域の子どもたちに係わることができる。今の世の中では小中学校の子どもを育てるのは難しい時代だ。その中で、そういう子どもたちに声をかけられることが嬉しい。狭い学区の中で子どもたちを守る上で、地区委員会は良いと思う。やっていて大変だが楽しい。
- 落合会長 以前は、少年の犯罪対策が主だったが、今は不審者対策が主になっている。地域が目が子どもを守ることになる。地域目とは知っていること。これをどれだけ増やせるかということだと思う。
- 西落会長 青少年問題協議会地区委員会の委員も地域に係って始めて係わることの重要性を認識する。
- 委員 一般に団体の活動は継続することが難しい。地区委員会によっては、とりあえず会長の名前はあるけど実態として動いていないというのはあるのか。
- 児童課長 それはない。情報交換するとそれぞれの地区委員会がどれだけ活動しているかがわかるので、自分たちの地区委員会でもこれだけ出来るということになると思う。自分たちではダメだと思っている会長は一人もいないと思う。会長は、時間があって顔がわかるという人でないとなれない。後継者の問題がある。
- 西落会長 いきなり新しい人が会長になるのは難しい。
- 委員 地区委員会から行政にお願いしたいことはあるか。
- 西落会長 地区委員会はこういう活動をしているというPRを行政からも必要に応じてやってもらえればと思う。
- 落合会長 地区委員会を紹介する場をつくって欲しい。それを公の場で設定してもらえると助かる。普通の場合で地区委員会ですと言っても理解を得るのは難しい。公の場で顔合わせをすると後のことも大分違うと思う。
- 西落会長 自治連合会と地区委員会の会長との交流があれば良い。違う視点から良い方向に進む可能性がある。
- 委員 本日は、ありがとうございました。

(青少年問題協議会落合地区委員長、同西落合地区委員長、児童青少年課長退席)

- 委員 地区委員会にとって、自治会と管理組合との関係がすごく大事だと感じた。
- 委員 次回は12月16日に開催する。次々回は、1月13日と18日と20日を候補とする。